

■ □ 名古屋市庁舎 1933年(昭和8)



外壁は、チョコレート色の筋入りタイル、時計塔の縦筋は薄茶色のテラコッタ、薄茶色の石板で化粧されている。タイルとテラコッタは伊奈製陶製。



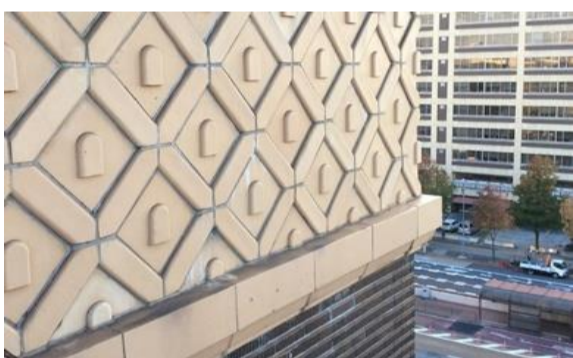
1階部分の薄茶色の部分が石板。焦げ茶色のタイルは顔料練込原料によるローラー型押し筋入タイル。



正面玄関から見上げた最上階の屋根の軒飾りのテラコッタ。テラコッタ釉(基本は「ブリistol釉」)というマットのクリーム色の釉薬がかかっている。



施釉テラコッタが凍害を受けて表面剥離が見られる。落下防止のためにネットが掛けられ落下に備えている。(東庁舎)



テラコッタ張り壁面
菱形とみて対角長さ：590



テラスのテラコッタ製笠木、クリンカータイル張り床
笠木寸法：355×193×103
タイル寸法；182×182 (食塩釉掛)



屋上床のクリンカータイル
タイル寸法；182×182 (食塩釉掛)



山茶窯(小森忍)製のテラコッタランタン等



チョコレート色の筋入りタイル（筋付無釉タイル）であるが、筋部分は4分の3ほどで残りはフラット面。押し成形機の出口のところに筋のついたローラーを取り付けて柔らかい成形体全面に筋を型押しし、その後フラットの部分を金属刃で削り取って仕上げている。



コーナー部分には役物の「曲り」が取り付けられている。これは成形後の柔らかいうちに2枚のタイルを同じ原料を糊代わりにしてL字型に接着し、乾燥し焼成して作られている
寸法：70×238



貴賓室の洗面所：小森忍の山茶窯（つばきがま）製の手作り布目窯変釉タイルを張った。壁と床ともに同じ色のタイル張り仕上げ。



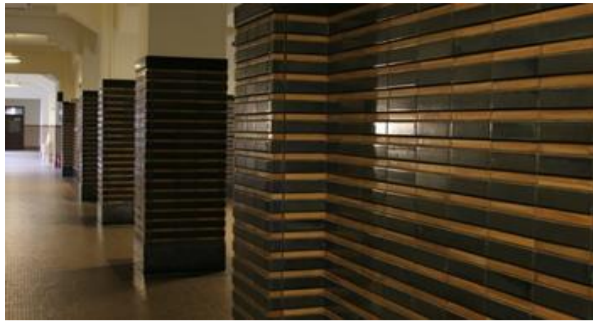
水色の発色金属は銅で微量のNaを添加し酸化焼成したもの。一部還元がかかって赤くなった箇所が見える。



幅木部分にも「内幅木出隅」タイルが張られている。



副市長 手洗所のタイル壁
タイル寸法：
周縁 50×74×34強 内側75×75 (目地寸5)



議場前廊下の壁面タイル（山茶窯製）
寸法濃紺ボーダー：60×220・170
金色ボーダー：28×220・170



同左のアップ コーナー部の役物は生接着品



1階廊下のタイル張りの腰壁



同左のクローズアップ。
タイル寸法：75×75 幅木は75×150



食堂・売店前の廊下のタイル
三角の谷・山を持つ横縞釉掛タイル(湿式成形)
寸法：65×237～240



コーナー部の役物は生接着
寸法：(65+65) ×68



売店入口の飾り柱のR平タイル
寸法：65×230



山茶窯製の美術タイル
3種類ほどの窯変釉が掛け分けられている。
寸法：75×75

【特徴】

外壁は伊奈製陶の筋タイルとテラコッタ、内部の壁や床は山茶窯と、当時の最高のタイルを内外に使った贅沢な仕上げになっている。メーカーの特徴でもあるが、現在とは違って役物も焼成前に粘土で接着しスムーズな丁寧なコーナー部分の仕上げとなっている。

【製法特記】

三角の溝付きの横縞釉掛タイルは、押出し成形の口金部分をジグザグの形状にし、その後山の部分のラインに軽くローラーで押さえて波打つように加工したものと推測される。

